新陳代謝でいちご産地が再成長

一体的かつ多面的な活動の成果

愛知県西三河農林水産事務所　農業改良普及課　岡崎駐在室
技術経営指導グループ　専門員　伊藤広孝

愛知県岡崎市、幸田町は、県内トップクラスのいちご産地である。産地活性化を図るため、関係機関が一体となり、『いちご塾』運営による担い手の確保・育成や、有機的な生産団地の形成などによる技術の高位平準化を2019年から進めてきた。

2023年8月現在で新規就農者12名の確保、平均単収の増加を達成でき、産地の販売額も増加するなど、大きな成果があがったため、その取り組みを紹介する。

取り組みの背景

愛知県岡崎市、幸田町は、歴史あるいちご産地だが、高齢化などによる産地縮小の危機感があった。このことから、2016年度に農家組織、ＪＡ、経済連、行政（県・市町）などが『ＪＡあいち三河「いちご」産地活性化プロジェクトチーム（以下、PT)』を結成（表１）、2026年度までに新規就農者30名（年３名）の確保および平均単収7.0t/10a（現状比130%）を目標に掲げた産地の戦略を策定した。これにより、中長期的にめざす産地の姿・目標を関係者が共有し、2019年度からＪＡあいち三河と県農業改良普及課が中心となり、目標達成に向け取り組んでいる。

取り組みの内容

取り組み❶

「いちご塾」運営による担い手の確保育成

2016年度からPT会議で体系的な研修体制の検討を進め、2018年度に就農相談の窓口として新規就農サポートセンターがＪＡに設置され、2019年度に愛知県立農業大学校ニューファーマーズ研修（就農希望者向けの基礎講座）と連携した研修カリキュラムを作成、県認定研修機関として『いちご塾』を開講した。

表１　ＪＡあいち三河「いちご」産地活性化PTの構成（◎：主体）

構成員（生産者が代表）	PT会議	PT分科会		
		研修分科会	団地検討分科会	スマート農業技術推進分科会
岡崎市いちご部会（農家代表）	○役員		○希望者	○5戸
幸田町いちご組合（農家代表）	○役員		○希望者	○5戸
県西三河農林水産事務所 農政課	○		○	
同　農業改良普及課	○	○	○	◎
ＪＡ愛知中央会	○			
ＪＡあいち経済連（資材、販売）	○	○	○	○
㈱アグリみかわ	○			
岡崎市農務課	○		○	
幸田町産業振興課	○		○	
ＪＡあいち三河営農販売部	○			○
ＪＡあいち三河営農企画部	◎	◎	◎	○

研修分科会では、効果的な研修を企画・運営（表２）するとともに、研修受け入れ農家と相談しながら研修体制の改善を進めた。また、研修習得状況をチェックリストにより「見える化」することで、研修効果の向上を図っている（図１、写真１）。

また、行政と連携しながら、各種制度の活用による円滑な就農支援や、就農後の重点的な経営のフォローをしている。

取り組み❷

ベテランと卒塾生の有機的な生産団地の形成

団地検討分科会では、農家、ＪＡ、経済連、県・市町が生産団地の建設を検討し「竜泉寺生産団地（ハウス７棟、面積75ａ）」を2020年度に整備した。この団地は、国の補助事業を活用し、ＪＡが生産設備をリース物件としたことで農家の初期負担を大幅に軽減できた。

この団地の特長は、ハードと合わせて①すべてのハウスでモニタリング装置「あぐりログ」を導入②ベテラン農家２戸と卒塾生２戸の同居③竜泉寺ICT研究会（農家４戸、ＪＡ、経済連、県農業改良普及課）を組織化したことで、日常的にお互いの生育・管理状況やICTを活用した環境データを比較し、切磋琢磨できる“有機的な生産団地”を形成することができた（写真２）。その結果、卒塾生が産地の平均単収を早期に達成し、モデル団地として大きな成功をおさめた。

取り組み❸

スマート農業技術の実証・評価

取り組み❷で環境モニタリングの有効性が明らかになったため、産地での横展開と環境制御へのステップアップを推進するため、PT内に「スマート農業技術推進分科

表２　『いちご塾』研修の流れとそのねらい

過程	実施内容			ねらい
募集	体験 選考 採用		・全国的に募集 ＪＡのHP（動画など）、市町ＪＡの広報誌、ちらし、ポスター、新聞、TVなど ・応募者に農作業体験 ・PT面接で採用の決定	・地元以外からも人材募集 ・応募前の農作業体験で、適性把握や認識のズレを修正 ・厳しい選考基準による選考
研修カリキュラム	農家研修			・農家生活、実務を経験 ・栽培管理、経営を習得
	座学		・講義 ・グループワーク ・ロールプレイング ・宿題の発表	・いちご生理生態の理解 ・専門的な知識の習得 ・経営判断能力の向上 ・経営方針の具体化
	作業経験			・さまざまな作業、方法の経験 ・地域や農家とのつながり
	部会行事			・地域や農家とのつながり ・めざす経営体のイメージ
	農業大学校	ニューファーマーズ研修		・農業全般の基礎知識 ・同期、仲間づくり
就農準備	就農に必要な書類作成支援		・市町担当と連携して支援 ・農地やハウス、補助事業などの情報提供	・営農計画の具体化 ・各種制度の円滑な活用

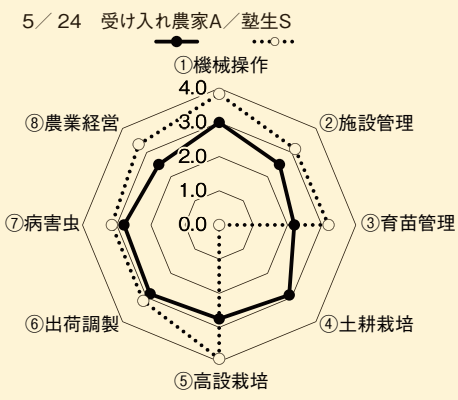

図１　研修習得状況の「見える化」

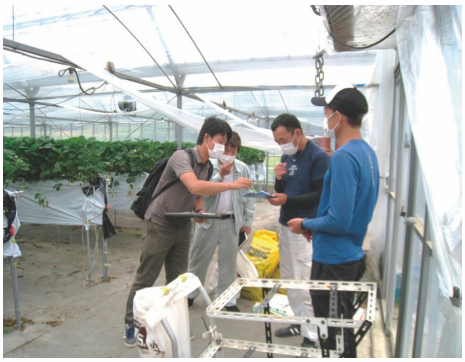

写真１　チェックリストで研修習得状況を確認

写真２　「あぐりログ」とそのデータをスマホで確認する様子

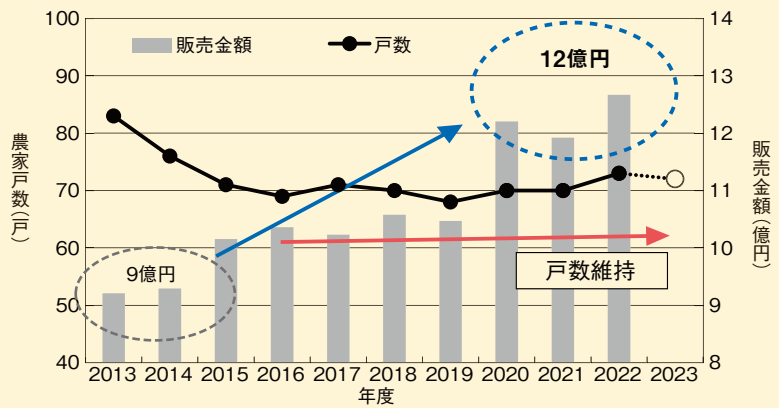

図２　ＪＡあいち三河いちご産地における農家戸数、販売金額の推移

会」を新設した。実証圃を４ヵ所設置し、環境モニタリング装置「はかる蔵」とデータ駆動装置「うご蔵」による環境制御技術の有用性を評価し、分科会でスマート農業技術の方向性の検討を進めている。

取り組みの成果

農家、ＪＡ、県農業改良普及課をはじめ関係機関が一体となり、中長期的な産地の戦略実現に向けて多面的に取り組んだ結果、2023年８月現在で新規就農者12名の確保、平均単収の増加［5.65ｔ/10ａ（105％）］を達成できた。これにより、農家戸数の維持、農家の平均売上の増加や平均単価を維持でき、産地販売金額が大幅に増加し、産地の再成長につながった（図２）。

その背景には①いちご塾卒塾生の平均単収が産地平均より高いこと②ICT・スマート農業技術を活用できたこと③既存農家にも技術や意識の向上が進んだことがあり、今後、産地の活性化はさらに加速していくと思われる。